

# ラムサール条約湿地 化女沼の四季・花マップ

春・夏・秋・冬編

この「化女沼の四季・花マップ」は、社会福祉法人宮城県共同募金会助成事業の助成を受けて作製されました。



野生植物研究所

高橋和吉



# 化女沼の四季・花マップ

# 春・夏・秋・冬編

## ・ 化女沼の位置

- 平成 20 年 10 月に国際的に重要な湿地を守るラムサール条約湿地に登録された。
- 化女沼は、宮城県仙北・大崎市北部の丘陵地と平野部が出合うところにあります。東北新幹線古川駅から車で 20 分、東北自動車道古川 I.C から車で 10 分、東北自動車道長者原スマート I.C から車で 1 分の所にあり、長者原サービスエリアから化女沼を望むことができます。また、化女沼へはサービスエリアから歩いて行くこともできます。大崎市には化女沼の他にラムサール条約湿地として蕪栗沼・周辺水田があります。

化女沼と蕪栗沼・周辺水田の位置



- 化女沼 東北新幹線古川駅 - 車で 20 分  
東北自動車道古川 I.C- 車で 10 分  
東北自動車道長者原スマート I.C- 車で 1 分
- 蕪栗沼・周辺水田 東北本線田尻駅 - 車で 20 分  
東北自動車道古川 I.C- 車で 40 分

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

## 化女沼

宮城県大崎市北部の丘陵地と平野部が出合うところに、化女沼(けじょぬま)があります。丘陵に抱かれた化女沼は、昔から灌漑用溜池として維持され、水生植物も豊富で、釣り人も多く、市民の憩いの場としても親しまれてきました。

1995年、田尻川の洪水調節と農業用水目的にダム堰堤が建設されました。ダム設置後、水面上昇等の影響で水生植物は減少したり、消滅したものがありますが、その後、種類数や個体数も回復し、夏には広範囲にヒシやヒルムシロなどの水草が水面を覆い、水際にはヨシ、ハス、マコモ、ショウブなどの大型の水草が生え、多種多様な水草が見られます。

化女沼はこのような自然環境に支えられて、ヒシクイ、マガン、オオハクチョウなどのガンカモ類の重要な越冬地として、2008年10月に国際的に重要な湿地を守るラムサール条約湿地に登録されました。



ダム堰堤から



夏の化女沼



マガンのねぐらいり

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編

## 化女沼の動植物

化女沼とその周辺の植物は種類数も多く、700種を超え、絶滅危惧種に該当するオオトリゲモ、タチモ、ナガエミクリなども見られます。夏には沼の広い範囲がハスの花で彩られ、水面はヒシで覆われます。沼の周囲にはノハナショウブやミソハギ、ニッコウキスゲなどの花も見られます。トンボ類の宝庫で、チョウトンボをはじめ、多くの種類が見られ、魚類は15種確認されています。冬には稀少なガン、ヒシクイの最大の生息地となり、日本へ飛来する群れのほぼ全数が、ここで越冬します。これ以外にマガン、トモエガモ、オオハクチョウやオジロワシなどが生息し、これまで112種の鳥類が確認されています。



ノハナショウブ



マガン



オオハクチョウ



チョウトンボ

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 1 ～



## チゴユリ【ユリ科】

低地～山地の林内に生える小型の多年草。高さ20～35cmになり、茎は細く、枝分かれせず茎頂に長さ1～1.5cmの白色の花を1～2個下向きにつける。果実は黒く熟す。可憐な小さな花を稚児に見立て、この名がある。



## ミツバツチグリ【バラ科】

各地の山地に生える多年草。長さ10～15cmの花茎の先に、淡黄色の5弁花を集散状につける。葉は有柄で3出複葉。根茎は硬く肥厚し、かたまりとなり根生葉、花茎、匍匐枝をだす。



## ムラサキサギゴケ

【ゴマノハグサ科】田の畔など、湿気のあるところに生える多年草。春、根ぎわの葉の間から花茎を伸ばして花をつける。花冠は紅紫色。葉は根ぎわに出て、その間から匍匐茎を伸ばし繁殖する。



## オオイヌノフグリ【ゴマノハグサ科】

西アジア、中近東原産の帰化植物。茎は基部で分枝して匍匐し四方に広がる。早春、直径1cmほどの4裂した花を一つずつつける。



## セイヨウタンポポ【キク科】

ヨーロッパ原産で世界中に帰化している多年草。セイヨウタンポポは、年間を通して花が見られる。化女沼及びその周辺では春咲きの日本古来のエゾタンポポも見られる。



## ムラサキケマン【ケシ科】

平地や山麓の日陰、雑木林など、やや湿った場所に生える越年草。高さ20～50cmほどの茎の上部に、紅紫色、ときに白色の花を総状に多数つける。花は美しいが悪臭がある。毒草の一つ。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 2 ～



**キツネヤナギ【ヤナギ科】**  
各地の山地に生える落葉低木で高さは1～2m。春、葉が伸びないうちに黄緑色の花穂を出す。雌雄異株。



**アカネスミレ【スミレ科】**  
低地～丘陵地の明るい所に生える多年草。全体に短い毛が多い。花は著系1.5cm程度。距は細長く、先が細くなる。



**タチツボスミレ【スミレ科】**  
山地林内から道端、人家周辺まで生育環境は広く、日本でもっとも普通に見られるスミレの一つ。花期には高さ10cmほどだが、花後30cmほどに伸びる。



**ヤマウグイスカグラ【スイカズラ科】**山地に生える落葉低木。花は4～6月。葉腋から出た長さ1～2cmの枝先に1稀に2個の紅色の花をつける。



**ニョイスミレ【スミレ科】**  
山野の湿地に生える多年草。高さ5～20cmで、葉は長さ1～3cmの心形で裏面は紫色を帯びる。花は白色で1cmほど小さく、唇弁の紫色の筋が目立つ。側弁に少し毛がある。距は特に短い。



**ニオイタチツボスミレ【スミレ科】**山地や丘陵地の林内、草地など、やや乾燥した場所に生える多年草。高さ10～25cmで全体に毛が多い。径1.5cmほどの濃紅紫色の花をつける。名は「花に芳香があるタチツボスミレ」を意味する。



# 化女沼の四季・花マップ

## 春・夏・秋・冬編

## ～ 春 3 ～



### スマイレ【スマイレ科】

低地や丘陵、山地の日当たりの良い草地などに生える多年草。花は直径1～2.5cmで色は濃紫色、淡紫色赤紫色など変化がある。



ノジスマイレ【スマイレ科】人家付近の路傍、庭園、原野、土手などに生える多年草。花は紫色。根が白く、花冠は直径1.2～2cm。



### クサイチゴ【バラ科】

山野に生え、一部緑葉をつけて越冬する小低木。春、花茎約4cm、白色の5弁花が前年枝に側生する小枝に1個つく。花後、小型の核果が多数集まり赤色球状となり食べられる。



### モミジイチゴ【バラ科】

山野に生える落葉性の小低木。前年の茎の葉腋から下部に葉をつけた花茎を出し、その頂に1個の白花をつける。核果は小さく、球形に集合してたれ下がり黄色く熟す。食べると味が良い。



### オオマムシグサ 【サトイモ科】

山野の木陰や草地に生える多年草。偽茎は高さ20～80cm。花序を包む暗紫褐色の仏炎苞(ぶつえんほう)は大きく長さ20cmに達する。



### マムシグササトイモ科

低地や丘陵の木陰に生える高さ1mほどの多年草。地下球茎から直立した1本の偽茎は白斑、又は紫斑があり、マムシの胴に似ている。偽茎の先の葉の間から緑紫色～暗紫色で、白い縦縞のある仏炎苞をもった花を咲かせる。雌株の液果は秋に紅塾する。毒草の一つ。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 4 ～



## シシガシラ【シシガシラ科】

常緑性の日本固有のシダ。山地林下、山麓の原野、路傍等に生える。葉は二形で孢子葉は株の中心部に数本が直立する。栄養葉は株の外側に開出して叢生する。



## クサソテツ (コゴミ)

【イワデングダ科】山地や野の湿地に群生する夏緑性の多年草。葉は春に出る栄養葉と秋に出る孢子葉があり根茎から束生する。方言のコゴミとは若葉の巻いている様をかがんでいる姿に見立てたもの。東北地方の代表的な山菜の一つ。



## ゼンマイ【ゼンマイ科】

林内、原野、岩場などの湿った場所に生える夏緑性の多年草。高さは60cm～1mになる。根茎は大きく、塊状で斜上し、枯れた葉柄の茎部で覆われている。栄養葉と孢子葉があり、春早く、こぶし状に巻いて根茎から束生し赤褐色の綿毛をかぶっている。綿毛は成長すると脱落する。山菜の一つ。



## オシダ【オシダ科】

山地の林床に群生することが多い夏緑性のシダ。葉の表面には光沢がある。孢子嚢群は上部の数個の羽片につく。



リョウメンシダ【オシダ科】常緑性のシダ。山地林下のやや湿った場所に生える。葉身の表面と裏面が同様に見えるので両面シダと呼ばれる。



ミヤマベニシダ【オシダ科】山地のやや湿った林床に生える夏緑性のシダ。光沢は少ない。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 5 ～



**クサノオウ【ケシ科】** 日当りの良い道端、林縁などに生える越年草。長い花柄の先にケシ科特有の金属光沢のある黄色の4弁花を数個つける。



**ヤマツツジ【ツツジ科】** 山野に生える半落葉低木。高さ1～3mとなる。花は4～5月に開花。花冠は朱色。直径3～4cm、漏斗形で5つに裂ける。白花品をシロヤマツツジという。



**ウマノアシガタ【キンポウゲ科】** 日当りの良い山野、田の畔、土手などに生える多年草。茎、葉ともに毛が多い。茎先で分枝した先端に径2cmほどの光沢のある黄色の5弁花をつける。毒草の一つ。



**ヘビイチゴ【バラ科】** 各地の原野、田の畔など湿った草地に生える多年草。花は4～6月、葉腋から出た花柄の先に、黄色の5弁花を開く。茎は地表をはい、軟毛がある。



**カキドオシ【シソ科】** 道端、畑の畔、垣根の脇などの湿り気のある所に生える蔓性の多年草。茎は細く四角形。はじめ直立するが花後倒れて蔓状に伸びる。春、葉腋に淡紫色の唇形花をつける。



**ハルジオン【キク科】** 路傍や畑などに生える北アメリカ原産の帰化植物。花は頭状花。舌状花は淡紅紫色、筒状花は黄色。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 6 ～



サワオグルマ【キク科】  
山間の日当たりのよい湿地や、あぜ道などに生える多年草。高さ60～90cm、茎、葉ともに白い綿毛でおおわれている。



ニッコウキスゲ【ユリ科】  
山地に生える多年草。群生することが多い。花茎の先に3～4個、濃い橙黄色の花をつける。尾瀬ヶ原のニッコウキスゲは有名である。山菜の一つ。



フジ【マメ科】各地の山野に生え他木に巻きついて伸びるつる性の落葉低木で、観賞用として庭園にも植栽される。5～6月、枝の先端より長さ30～90cm位の総状花序をたれ下げ紫色の蝶形花を多数つける。



サワオグルマ【キク科】春、茎の先に短い枝を散房状に出し、舌状花ばかりの黄色の頭花をつける。花後、タンポポのような白い冠毛のついた、そう果を結ぶ。



ニセアカシヤ【マメ科】北アメリカ原産の落葉高木。庭園や街路樹としても植えられてきたが、繁殖力が強く在来種に影響があり問題となっている。



カラスノエンドウ【マメ科】原野や空き地など、いたる所に生える多年草。紫色の蝶形の花が咲き、豆のような果実ができる。山菜の一つ。

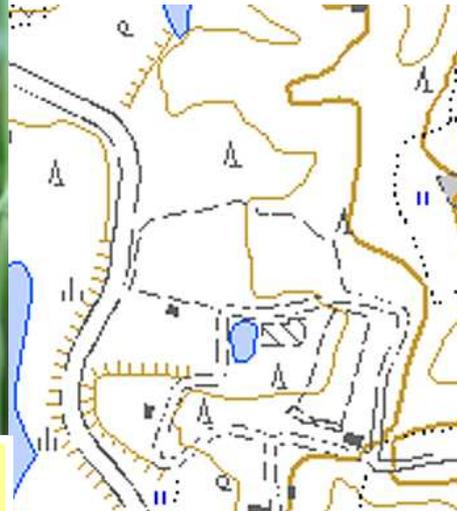
# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ~ 春 7 ~



**フトイ【カヤツリグサ科】**  
 湿地や池沼に生える多年草。草高80cm~2m。太い走出枝がある。葉は葉鞘だけで葉身は退化。



**ウキヤガラ【カヤツリグサ科】**  
 池や沼などの水辺に群落をつくる多年草。ウキヤガラの名は、浮き矢幹ということで真直ぐに伸びる花茎に由来している。



**ゴウソ【カヤツリグサ科】**  
 田の畔や沼の周囲などの湿地に生える。高さ30~50cm位の多年草。果穂は六角柱で長さは1.5~3.5cmくらい。



**フトイ【カヤツリグサ科】**化女沼では以前は生えていなかったが現在では数箇所に大きな群落が見られる。



**シロバナツメクサ (ハッカツメクサ) 【マメ科】**ムラサキツメクサの白花品。県内では稀に見られる。



**ムラサキツメクサとシロバナツメクサ【マメ科】**路傍、草原など、日当たりの良い場所に生える多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物で、牧草として明治時代に輸入され、野生化したものといわれている。

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 春 8 ～



**ノアザミ【キク科】**  
 山地の草原、丘陵などに生える。枝先に管状花ばかりの紅紫色の頭花をつける。総苞片は刺針のように鋭く、外側に隆起した粘着部がある。



**ヤマボウシ【ミズキ科】** 山地に生える落葉高木。4枚の白い花弁のように見えるのは総苞片で、中心部に花弁4枚、雄しべ4本、雌しべ1本持つ多数の小花が集まる。秋に集合果は赤熟し、やまぐわといひ食べられる。



**ニガナ【キク科】**  
 山地や丘陵地の明るい草地に生える。茎は長さ30cm内外。初夏に黄色の頭花をつけ集散花序状となる。ニガナは苦菜の意味で、茎や葉に苦味のある白い乳液をふくんでいるに基づく。



**ノアザミとニッコウキスゲ**  
 あやめ園の東側の草地にニッコウキスゲのわりと大きな群落がある。ノアザミも多く見られる。又湿地にはニッコウキスゲとサワオグルマが混生している。



**エゴノキ【エゴノキ科】**  
 山地や原野などに生える落葉の小高木。5から6月小枝の先端に総状花序を出し1～6個の白花が垂れ下がって開く。方言で「ずさのき」と言い、果実を「ずさのみ」と言う。



**キレハイヌガラシ【アブラナ科】** ヨーロッパ原産の帰化植物。化女沼では「あやめ園」に多数見られる。根の切片でも繁殖するので除去が困難。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 夏 1 ～



**スイカズラ【スイカズラ科】**  
つる性の低木。花ははじめ白色で、後に黄色と変化する。白と黄色の花が混在する様子から「金銀花」とも呼ばれる。民間薬の一つ。



**ノハナショウブ【アヤメ科】** 日当たりの良い山野のやや湿った場所に生える。園芸種ノハナショウブの原種。



**ヤマウコギ【ウコギ科】**  
山地の林内に生える雌雄異株の落葉低木で、樹高は数メートルになる。葉は5小葉からなる掌状複葉。短枝の先に散形花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。山菜の一つ。



**ヤマグワ【クワ科】** 浅い山や丘陵に生える雌雄異株又は同種の落葉性高木。高さ10mにもなり、幹は直立し上部で分枝する。葉は片側に深く切れ込むなど変化も多い。新枝の下部から柄のある穂状花序を垂らし淡黄色の小さな裸花を多数つける。花後に宿存萼が肥大してクワゴとなり、白から赤、最後は黒く熟す。



**ナンテンハギ【マメ科】**  
原野や山麓などの日当たりの良い草地に生える多年草。ナンテンに似た2小葉が互生、巻きひげはない。山菜の一つ。



**ウツボグサ【シソ科】**  
日当たりの良いあぜ道や山際の草地などに生える。高さ10～30cmになる多年草。名前は矢を入れるうつぼに似ていることからつけられた。民間薬、山菜の一つ。



# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 夏 2 ～



**ミソハギ【ミソハギ科】** 原野や山野ふもと等の湿った所に生える。高さは1m内外。夏に葉腋に集散花序をつけ、紅紫色の花が3～5個集まって開く。



**サワヒヨドリ【キク科】** 山地の日当たりの良い草地に生える。茎の上部は縮毛を密生する。下葉は花時には枯れてなくなる。



**ツリフネソウ【ツリフネソウ科】** 山麓から平地にわたり水辺に生える一年草。茎は紅紫色。秋に紅紫色の花が、茎頂に立つ花柄の先から下垂する。花は帆掛け舟を釣り下げたようで、距の先は内に巻く。



**ショウブ【サトイモ科】** 池や溝のふちに生える多年草。植物全体、特に地下茎には芳香があり、我が国では端午の節句に、家の軒先にショウブとヨモギをさしたり、菖蒲湯を使う風習がある。



**ミソハギ【ミソハギ科】** 以前は化女沼には、割と普通に見られたが、近年、見られる場所も生えている場所もだいぶ減少している。



**オオトリゲモ【イバラモ科】** 湖沼、ため池などに生育する沈水植物。ほぼすべての節で二又状に分枝を繰り返しながら成長し、長さ50cmを超えることもある。貴重な植物の一つ。

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 夏 3 ～



## ヒシ【ヒシ科】

湖沼、ため池、河川などに群生する一年生の浮葉植物。浮葉はロゼット状に配列する。花期は7～9月。花は葉腋から伸びた花茎の先に着き、花弁は白色。果実は4個のがく片のうちの2つが発達して刺になる。



## ハス【ハス科】

古い時代に支那から渡って来たとされる多年草の水草。湖沼やため池などに生育する。原産はインドと考えられている。



ハス【ハス科】蜂の巣状の花托に果実が実ることからハチス→ハスという名になったと言われている。地下茎は食用にされ、蓮根と呼ばれている。



## ヒシ群落【ヒシ科】

化女沼にはヒシとヒメビシが生育している。以前はヒメビシも多く見られたが現在見られるのはほとんどがヒシである。



ハス【ハス科】化女沼には40数年前までハスの生育は確認されていなかった。その後ハスが確認され、増え続けた。ダムができ水位があがり絶滅状態になったが、現在は化女沼のかんりの面積を覆うようになった。



## ミズオオバコ【トチカガミ科】

湖沼、ため池、水路などに生育する一年生の沈水植物。葉は薄く形はオオバコに似ている。花期は8～10月。花茎は5～50cm。花弁は3枚。生育場所によってかなり大きさが違う。

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 夏 4 ～



ヒルムシロ【ヒルムシロ科】

湖沼、ため池、河川、水路、水田などに生育する浮葉植物。ヒルムシロ属の中では最も雑草的性格が強い。水中茎は水深によって長さ10cm～3mにもなる。



ナガエミクリ【ミクリ科】湖沼、ため池、河川などに生育する多年草の抽水～浮葉植物。花期は6～9月、花序は分枝しない。雌性頭花は3～7個。果時には径1.5～2cmになる。雄性頭花は4～9個で雌性頭花から離れて付く。



オモダカ【オモダカ科】湖沼、ため池、水路や水田に生育する抽水生の多年草。葉は矢尻形、花期は7～8月。

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 秋 1 ～



**ツルリンドウ【リンドウ科】**山地の木陰に生える蔓性の多年草。蔓は紫色を帯びる。花は薄紫色で白色に近いものもある。果実は液果で紅紫色。



**イヌザンショウ【ミカン科】**山野に生える落葉低木。サンショウは刺が対生するがイヌザンショウは互生する。イヌザンショウの名はサンショウのような良い香りもせず、サンショウに似ているが人間にとっては役に立たないことを軽蔑してつけた。



**ガズミ【スイカズラ科】**日当たりの良い山野に生える高さ2～4mになる落葉低木。枝先に花茎を出し、散房状に白色で柄のある5弁花を多数つける。果実(液果)は卵形で、秋に鮮紅色に熟し、熟果は甘酸っぱい。



**メドハギ【マメ科】**各地の草地や道端に生える多年草。花は9～10月、葉腋に紫色の線がある白色蝶形花が数個散形につく。

# 化女沼の四季・花マップ 春・夏・秋・冬編 ～ 秋 2 ～



**トレモコウ【バラ科】**

山地から平地までの日の当たる草原や土手などに生える多年草。7～10月、枝の先端に楕円状の穂状花序を出し、花卉のない暗紫色の小花を密につける。



**セイタカアワダチソウ【キク科】**

北アメリカ原産の帰化植物。多年生草本。空き地や河川敷に大群落をつくる。高さ2.5mに達する。秋に茎の上部に多数の枝をだし、直径5mmほどの黄色い頭状花を密に穂状に着ける。



**オオイヌタデ【タデ科】**

道端、荒地、農地などの少し湿った所に生える一年草。花穂は先が垂れ長さ10cmにもなり、淡紅色から白色の花が8～10月に咲く。がくの脈は先が2又になり、かぎ形に曲っている。



**ウメモドキ【モチノキ科】** 山中、湿地に生える落葉低木で高さは数mになる。雌雄異株。広く庭園にも植栽される。6月頃に淡紫色、ときに白色小花を葉腋に群生する。核果は小球形で紅熟。落葉後も枝に残って美しい。



**ヤマウルシ【ウルシ科】**

山地や丘陵に生える落葉小高木。雌雄異株。葉は奇数羽状複葉で、若葉や葉柄は赤味がかかる。6月頃に茎頂の葉腋に円錐花序をだす。秋の紅葉が美しい。



**キンミズヒキ【バラ科】**

山地の道端、原野などに生え高さ50cm～1.5mになる多年草。花は短い柄のある黄色の5弁花を多数つける。実には鉤状の刺があり動物の毛や衣服に付着して種子を散布する。民間薬の一つ。



# 化女沼の四季・花マップ

## 春・夏・秋・冬編 ～ 冬 ～



### ハンノキ【カバノキ科】

平地や山地の低湿地に生える落葉高木。雄花は前年の秋から小枝にでき、春に尾状に伸びて下垂する。家の裏などにしばしば植栽される。



### コシアブラ【ウコギ科】

山麓、原野などに生える落葉高木。葉は互生し5枚の小葉からなる掌状複葉である。材質が柔らかく細工しやすいので花等に利用されている。木の芽は山菜の一つ。



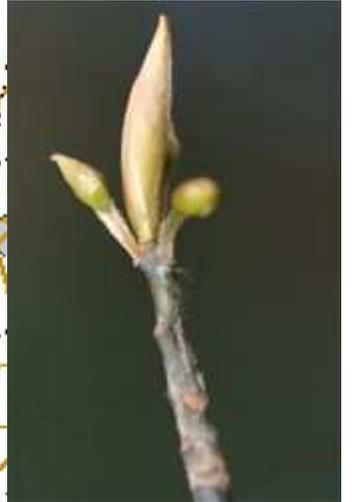
### タラノキ【ウコギ科】

山地の林内や林縁に生える多年草。幹の先端の葉芯から複総状花序を出し、多数の5弁花をつける。若芽は山菜の一つ。



### ホオノキ【モクレン科】

山地や平地の林中に生える高さ20m以上になる落葉高木。葉も花も大きい。葉は食べ物を包むのに用いる。



オオバクロモジ【クスノキ科】山地に多く生える落葉低木。樹皮は平滑で元来緑色であるが普通黒い斑点が見られる。樹皮により香りがあるので爪楊枝(つまようじ)などをつくる。



### ミズキ【ミズキ科】

山地などに生える落葉高木。枝は冬の間は紅色を帯びる。5月に小枝の先に散房花序を出して多数の白色小花を蜜につける。正月の飾りをつけるのに利用される木の一つ。